

# 石垣通信 Vol.1

## 令和4年9月27日

### 友好都市提携35周年を迎えます！

石垣市との友好都市提携35周年を記念して、友好都市提携に至るまでの経過やこれまでの交流の歩みを紹介いたします。

#### 最北端と最南端で縁結び

稚内市と沖縄県石垣市は、日本の最北端と最南端に位置していることが縁で、友好都市を提携しました。

始まりは、昭和58年2月に開催



固い握手を交わす両市長

### 石垣市との交流のあゆみ

昭和58年2月	「わっかない氷雪の広場」開成式で、稚内市長と石垣市長が記念通話を記念して、友好都市提携に至るまでの経過やこれまでの交流の歩みを紹介いたします。
昭和61年4月	稚内市長より石垣市長へ、「稚内市・石垣市の友好都市提携」について公式に申し入れ
昭和62年9月	石垣市民会館で「稚内市・石垣市友好都市提携」の調印を行う
昭和63年6月	石垣市長を団長とする一行73人が、稚内市を訪問。「世界平和の鐘・子育て平和の鐘」落成式に出席
平成2年3月	石垣市内の小学校の代表団、「少年・少女友好親善の翼」の児童19人が稚内市を訪問
平成4年2月	友好都市提携5周年を記念し、「石垣市民訪問団」が稚内市を訪問
平成5年3月	友好都市提携5周年を記念し、「稚内市民交流の翼」一行90人が、石垣市を訪問
平成6年8月	スポーツ少年団との交流が始まる(サッカー少年団受け入れ)
平成6年10月	稚内市・石垣市職員の相互交流研修を開始
平成8年3月	「稚内市民の翼」一行107人が、友好都市提携10周年を記念し、石垣市を訪問
平成8年9月	「石垣市民の翼」一行52人が、友好都市提携10周年を記念し、稚内市を訪問
平成14年10月	「石垣市友好訪問団」23人が、友好都市提携15周年を記念し、稚内市を訪問
平成15年2月	「稚内市民代表団」40人が、友好都市提携15周年を記念し、石垣市を訪問
平成15年7月	国際ソロプチミスト稚内と石垣が姉妹クラブの調印を行う
平成19年8月	「石垣市友好訪問団」36人が、友好都市提携20周年を記念し、稚内市を訪問
平成19年11月	「稚内市民の翼」一行106人が、友好都市提携20周年を記念し、石垣市を訪問
平成20年7月	稚内市市制施行60周年記念式典に「わっかない・石垣っぺん市民の会」17人に参列いただき、石垣市職員2人による八重山伝統民族芸能「赤馬節」を披露していただいたほか、「石垣市・稚内市友好の絆守る会」との交流会を開催
平成23年8月	「第1回最北端・食マルシェ」に「石垣島ブース」を設置し、石垣市職員5人が石垣島の物産品を販売
平成24年11月	「稚内市民の翼」一行47人が、友好都市提携25周年を記念し、石垣市を訪問
平成25年2月	「石垣市友好訪問団」35人が、友好都市提携25周年を記念し、稚内市を訪問
平成27年10月	稚内青年会議所創立60周年記念事業「北から南へひとつとび～未来へ紡ぐ糸と糸」で、稚内の取り組みや魅力を発信するため、74人が参加し、観光PRパンフレットの配布、少年野球交流やダンス交流、物産の販売を実施
平成29年8月	「石垣市民訪問団」32人が、友好都市提携30周年を記念し、稚内市を訪問。市民訪問団とは別に石垣市議団18人が来稚。
平成29年11月	「稚内市民の翼」一行45人が、友好都市提携30周年を記念し、石垣市を訪問。稚内市民の翼とは別に稚内市議団9人が石垣市を訪問

の調印が行われました。

この調印式に合わせて、稚内市長を団長とする関係者の代表50人による「稚内市・石垣市友好都市提携記念交流団」が、4泊5日の日程で石垣市を訪問しました。一行は、本市と産業形態がほぼ同じである農業や漁業をはじめ、観光などの各分野の代表者と楽しく懇談し、交流を深めました。

また、翌年6月には、石垣市長を団長とする一行73人が本市を訪れ、「世界平和の鐘・子育て平和の鐘」落成式に参加されたほか、市内観光や歓迎レセプションで交流を深めました。

その後も、5年に一度の周年事業をはじめ、さまざまな場面で交流を重ねてきました。石垣市との主な交流内容はご覧のとおりです。

#### 交流事業を開催

35年の節目となる今年度は、両市のさらなる交流発展を願って、市民訪問団を結成し、交流事業を計画しています。詳しい内容や日程については、広報紙の紙面をはじめ、ホームページや新聞広告などでお知らせします。

（新型コロナウイルス感染症の感染状況により、実施を見送る場合もあります。）

#### 問い合わせ

稚内市企画調整課広報・広聴グループ  
☎0162・23・6387

#### 「新年度を迎えて」

令和4年度が始まりました。新型コロナウイルスの感染が始まってから早や2年が経過し、3年目を迎えました。感染者数こそ頭打ちとは言え、高止まりしている状況です。しかし、経済活動をこのまま停滞させる訳にはいかず、低所得対策など家計への影響に配慮しつつも、積極的な経済対策に取り組む必要があります。また、コロナ対策ももちろんですが、様々な分野で人手不足が大変深刻です。外国人材については、コロナの影響が大きいので、すぐに解消されることは難しく、一方で、コロナの影響による首都圏からの移住希望など、巷では、地方が受け皿になり得る可能性が強調されがちですが、距離的、気候的なハンディを考えれば、一朝一夕に解決できる課題だとは考えていません。

ただ、この問題については喫緊の課題でもあり、全庁挙げての取り組みが求められていることは当然として、今年度の組織体制を検討するにあたって、今、地域が抱えている課題はそれだけではなく、国のデジタル庁の発足などを受けてのデジタル化への対応、ゼロカーボンに向けての積極的な取り組み、何よりも人口減少や少子高齢化がもたらしている様々な課題、特に、誰もが安心して住み続けるための地域医療問題などは、いずれも待ったなしの課題です。改めて、それらに積極的に取り組みながら、市政運営に努めますので、今年度も皆様のご協力をよろしく願います。

稚内市長 工藤 広



No.82